

東日本大震災

和歌山民医連・医療生協・民医労3者対策本部支援ニュース

NO. 5 2011. 4. 6



4/5 支援報告会(第4次支援隊)

大塚洋子(Nr)白瀧俊介(事)から

「貴重な経験させてもらった。
和歌山民医連に来てよかったです。
全国から支援、民医連って大きい。
若い人も見直した。」(大塚)

「もっともっと若い人を送りたい」(白瀧)

4月5日(火) 14:00から第4次東日本大震災支援報告会が行われました。「高齢のご婦人に声をかけたら、連れ合いが流され1人になった。私も流されたほうが良かった」と話され何とも言えず、背をなでた大塚Nrの経験や白瀧(事)からは次の報告がされました。

避難所での医療活動。主に支援に入ったのは宮城県多賀城市です。避難場所を区切って、担当エリアごとに保健所職員がその地域の健康管理をします。その任を坂総合病院と避難所の市職員が協力していくという体制です。どうやって健康管理をしていくかを一緒にになって考えます。で、ついでに言っとくと診療記録の管理は医療事務の出番です。

僕が医療支援にいったのは天真小学校という所で、これは体育館の写真です。もっと中の様子撮りたかったけど、さすがに中に立つたら撮る気にはなれませんでした。ついでに言っとくと、家を流された人は普段飲んでいる薬も流されています。支援物資で届く薬は種類に限りがあります。違う種類の薬を飲むことになります。薬剤師の出番です。給油待ちの列はどこも1kmくらい続いていました。最後尾で整理券みたいなのを配っていました。行きのバスで、SAごとに放射線量測定をしました。あんまり関係ないと思うけど、放射線技師が測定をしました。有害レベルではありませんが、やはり東北道福島県内は高数値でした。津波の水がまだ引いていない所を自衛隊が作業していました。

自衛隊の車両を至る所で見ました。本当によくやってくれてると思いました。だからこそ、この組織が「自衛隊」ではなく真の災害・復興支援に特化された部隊であればいいのにと思いました。脱線ついでに、避難所で出会ったいわゆる地方公務員の人たちも本当によくやってくれてると思いました。こんなときに、地域に根を張って全体的な仕事ができるのは地方公務員だと思います。安易な公務員減らしは、災害時のリスク増大を招くと思



いました。

奇跡の犬被災地訪問したときにいったお宅の写真。

津波は第一波、第二波、第三波と襲った。このお宅の二件隣の人は、第一波が引いたあと家に戻って、第二波にのまれ亡くなつたそう。この犬は、紐につながれ逃げれなかつた。だけど生き延びた。家の人が避難所から家に帰ってきたときは全く鳴き声をあげなかつたそう。僕がいったときには元気に吠えていました。家の人は、片付けをするために昼間は家にいき、夜は避難所に戻ります。けど、それができるのは元気な体力のある人や支援のツテがある人たちだけ。老夫婦は、キリスト教会のボランティアの人の助けを借りて家の片付けをしていました。看護師が血圧を測るとホッとした表情になっていました。

社会福祉協議会のボランティアの人の助けを借りて片付けをしているお宅もありました。僕よりも若い、高校生くらいの子たちも頑張っていました。「近頃の若い子は...」と

か言う大人に見せてやりたい光景でした。至る所で津波の高さを物語る「線」がありました。床が抜けて布団が取り出せない状態。ただ、なんとも言えない事実として、少し離れた家によつては全く被害がない家もありました。これは配給の食事。ほとんど食べられないかもと思って行きましたが、これも事実として、行った坂総合病院は高台に位置するためほとんど被害がなく、想像以上に快適でした。支援物資もこの地域では大量に届いていました。全国から寄せられた支援メッセージ。日本全国から多数の支援団が来ていました。僕は職場の条件に恵まれたため現地にいくことができました。ぜひ条件が許す人は現地へ行ってきて欲しいなと思います。特別な技術がなくてもやることはいくらでもあります。まだまだ課題はたくさんあるので支援行動は続きます。

奇跡の犬



血圧測定のシーン。「血圧測つてもらうと安心する。」
このまわりでボランティアの人たちが片付け。

第7次支援 冷水洋二（調理師）4／10～14 東日本大震災支援者エントリー登録を

支援希望者を募ります。久保田（県連）・根来（医師）・藤沢（技術・事務）・東（N r）・宅田（薬剤師）・木津（県連）までご連絡下さい。

* 支援募金・義捐金 4/5PM最終現在 2,045,474 円

次の報告会

4／12（火）17：30～5F会議室